

令和5年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会 阿寒地域部会・摩周地域部会  
議事概要

1. 日 時 : 令和 5年11月 8日(水) 14:00~16:30
2. 場 所 : 川湯観光ホテル コンベンションホール ラピュタ
3. 出席者 : 出席者名簿のとおり
4. 議 事 : 以下のとおり

■ 1. 開会

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長より挨拶

- ・国立公園満喫プロジェクトは、平成28年度の開始から8年が経過しようとしています。
- ・最初の計画年度は2020年度までで、現在は2021年度から2025年度までの第2期に差し掛かっています。
- ・第2期が始まった頃からコロナが蔓延し、観光客も来れなくなり、なかなか取り組みが進まない状況となりました。
- ・コロナによる制限が徐々に緩和され、観光客が戻ってきましたが、第2期の計画年度の最終年度が近づいています。
- ・満喫プロジェクトは、政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づいた取り組みで、2030年までに訪日外国人旅行者数を6千万人とする目標に向かっていきます。
- ・それぞれの取組個票について、2025年度までに行う予定をしている取り組みの進捗状況を少し細かく確認させていただきます。
- ・本日は、よろしく願いいたします。

■ 2. 議題

(1) 報告事項について

○北海道運輸局観光部観光企画課渡延課長から資料1-1に基づき説明

- ・本日はお時間をいただきありがとうございます。9月に札幌を中心に開催されたアドベンチャートラベル(AT)の世界最大のイベント、「ATWS2023」の開催報告と、どのような評価が得られたかをご紹介します。
- ・ATとは、自然や異文化をアクティビティを通じて体験し、地域の人々と双方向で触れ合い、楽しみながらその土地の自然と文化をより深く知ることによって自分の内面が変わっていくような旅行形態を指します。近年、日本国内でも非常に注目が高まっています。
- ・とくに北海道は、豊かな自然と文化が揃っていることから、ATツアーの催行に適しています。それらが評価され、北海道でのATWSの開催に至りました。
- ・ATWS2023の開催に先立ち、プレサミットアドベンチャー(PSA)として、道内では15コース、道外では7コースの計22コースが数日間に渡り催行されました。中でも道東地域では「野生動物と冒険の旅7日間」というツアーが催行され、好評を博しました。

- ・このほかにも、道央圏では、日帰りのツアーであるデイオブアドベンチャー（DOA）として31コースが催行されました。
- ・ATWS2023のうち、商談会やセミナーは、本年9月11日から14日にかけて札幌コンベンションセンターにて開催されました。この会議の本体には64の国と地域から約770名の参加があり、コロナ禍前と比較しても好調で多くの方々が集まりました。
- ・参加されたバイヤーやツアーオペレーター、ガイド等による、参加者からのAT旅行の目的地としての日本の総合評価は5段階中4.7で、他の地域よりも高くなっています。
- ・参加者が顧客や友人に向けて日本を強く勧めたいと評価した割合は77%で、60%強であった昨年よりも高くなっています。
- ・ATWSに参加した結果、日本への好感度が向上したと答えた割合は63%でした。
- ・プレサミットアドベンチャーや北海道全体のサステナビリティへの努力についても5段階中4を超える高い評価を得ています。
- ・アンケートに回答したバイヤー80者が扱う日本への旅行者は、2026年には12,000人超まで増加すると見込まれています。
- ・今後3年のATによる日本への経済効果の見通しは、7,720万ドル（約110億円）のぼると試算されています。
- ・AT旅行の目的地としての北海道は世界からも認められており、今後の展開にも期待できると思われまます。
- ・北海道運輸局としてもATを通じて、地域を大切にす、また環境に優しい観光を推進していきたいと思っております。
- ・参考になりますが、今年3月に観光立国推進基本計画（第4次）が閣議決定されました。昨年、オーバーツーリズムが問題となっていますが、この新しい基本計画でも持続可能な観光地域づくりにも重点が置かれており、地域に負荷をかけない観光の在り方が検討されているところ、ここでもATに注目が集まっています。
- ・ありがとうございました。

**資料1-1について、出席者からの質問等はなし**

○釧路市産業振興部秋葉観光振興監から資料1-2に基づき説明

- ・釧路市では弟子屈町さんと一緒に観光圏整備法に基づく「水のカムイ観光圏」という取り組みを平成22年から続けています。
- ・平成26年頃からこのエリアを生かすために、欧米へのアプローチを模索している中で、北海道運輸局さんにもお世話になりながら、アドベンチャートラベルのマーケットに偶然出会うことができました。
- ・サミット当日は、阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社（DMC）、釧路と阿寒のDMO、釧路市役所、地域おこし協力隊で参加しました。
- ・事前の準備では、弟子屈町さんや摩周湖DMOとも連携しました。

- ・マーケットプレイス（A Tのバイヤー）の実績では、事前のマッチ件数は11社で実際の商談件数は7社でした。
- ・海外事業者の反応としては、宿泊施設や飲食店等のローカル情報をもっと欲しいとリクエストされたり、ビーガン対応など食の部分に懸念が示されたりしました。
- ・メディアコネクトの実績では、25社と面談しました。
- ・海外事業者の反応としては、ストーリー性を重視しているため、「何故あなたの地域を訪れるべきなのか」「そこにしかないストーリーは？」と問われる場面もありました。
- ・阿寒摩周エリアと釧路湿原エリアに8名のメディア関係者を招聘して、9月15日から18日にかけてポストサミットアドベンチャーが開催されました。
- ・受け入れに当たっては、釧路地域A T推進会議の構成員が中心となり、地域のA T関係者が連携することで受入体制を強化しました。
- ・ゲストの評価としては、雌阿寒岳トレッキングでは、参加者全員がメディア関係者だと対応しやすいと思ったが、同じメディア（雑誌系とウェブ系）でも、ペースに大きな差があり、各々で不満を漏らす場面がありました。
- ・釧路川源流カヌーでは、「源流の水がすごく綺麗！強度が高くなくて、連続の登山の後にはちょうどいい」との声がありました。
- ・もっとハードなアクティビティを紹介することが多いので、アドベンチャー性については物足りないとの意見もあったが、基本的には高い評価でした。
- ・全体的な評価と課題としては、通訳を介したガイドの説明にストレスを感じていた様子が見受けられました。
- ・英語で話せるガイドの必要性は言うまでもないが、英語の話せないガイドでも素晴らしい方は沢山いるので、どのように活かすかが、今後の地域の課題とされます。
- ・A TWSはゴールではなく、スタートと位置付け、今冬、釧路市と弟子屈町の連携によるA T-FAMトリップを実施し、当地域の冬の魅力を発信することやロングトレイル等の満喫プロジェクトの成果を活用させていただきながら、A Tを根付かせ、地域の「稼ぐ力」を高めていきたいと思えます。
- ・ご清聴、ありがとうございました。

資料1-2について、出席者からの質問等はなし。1-1について、環境省田中より質問

- ・資料1-1の10ページ、北海道全体のサステナビリティへの努力の評価項目にある、「Combating climate change」や「Conserving energy」では、5段階中4前半となっております。他の評価項目より若干低いですが、理由は把握していますか。

資料1-1について、北海道運輸局観光部観光企画課渡延課長より回答

- ・数字のみでコメントはないので推測となり、具体的な回答になりませんが、わかりやすく感じられる場所が少なかったのではないのでしょうか。

○弟子屈町観光商工課秋山課長から資料1－3に基づき説明

- ・ よろしくお願いいたします。
- ・ 3つの事例をご説明いたします。
- ・ 全てが弟子屈町の取り組みではなく、町内の団体が取り組んでいるものもまとめてご説明いたします。
- ・ 以前は「硫黄山レストハウス」という呼び方でしたが、9月12日より「硫黄山MOKMOKベース」としてリニューアルオープンしています。
- ・ MOKMOKシアターが今回の大きな改修の特徴であり、硫黄山の大自然を美しく・雄大に切り取っています。
- ・ 大きなガラスを硫黄山側に設置し、迫力のある映画館のような形で硫黄山を見ることができます。
- ・ ソファが特徴的であり、「摩周湖カムイテラス」の展望台にあるものと同じような角度となっており、長い時間座ることで迫力を感じていただけます。
- ・ MOKMOKシアターが一部含まれているMOKMOKテラスが設置されています。
- ・ 以前も座って休憩できるスペースはありましたが、それを上質な空間にリニューアルすることで、ゆっくりと寛いでいただけるようになっています。
- ・ 硫黄山ミュージアムでは、採掘した硫黄を運搬するために北海道で2番目の鉄道が敷設された歴史や模型、硫黄を採掘した道具等、それらを紹介しています。
- ・ テラスの横に歴史を含めた文化的なもの見学してもらうスペースとなっています。
- ・ MOKMOK Cafe & マルシェとして、飲食・お土産区画の改修も実施しています。
- ・ リニューアルの効果として、テラスを含めて観光客の滞在時間が延び、非公式な数字になりますが、昨年度比1.5倍で、とくに飲食部門が顕著で、当初目指していた効果が出ています。
- ・ リニューアルの概要につきましては、ステップアッププログラム2025のKA-4、摩周湖第一展望台及び硫黄山レストハウスのリニューアルの取組個票に基づき取り組んでいます。
- ・ 取組主体としては、弟子屈町を筆頭に、北海道さん、環境省さん、自然公園財団川湯支部さん、林野庁さん、振興公社さんにそれぞれ協力をいただいています。
- ・ 工事費用については、8千2百万円のうち、3千万円は令和5年度国立公園等資源整備事業費補助金（上質化事業）を活用し、さらに1千万円は現時点で未採択ですが、地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業による補助金を申請しています。
- ・ 繰り返しになりますが、期待される効果としては、利用拠点の上質化による滞在時間の増加、周辺の自然や体験アクティビティの認知度向上が挙げられ、実際に効果が出ています。
- ・ 自然公園財団川湯支部が取組主体のKA-3、利用料等の公園管理への活用及び町民への駐車場無料開放の取組個票に基づき、硫黄山の駐車場を無料開放することで、町民の利用も増えています。

- ・摩周湖観光協会が取組主体のKA-7、川湯温泉におけるナイトタイム活用の推進の取組個票に基づき、硫黄山を利用したナイトタイムコンテンツもあります。
- ・弟子屈町が取組主体のKA-6、持続可能な観光の国際基準を活用した地域づくりの取組個票に基づき、世界の持続可能な観光の推進と国際基準（ガイドライン）を策定することを目的に平成20年に発足した、世界持続可能な観光協議会（GSTC）により認定された、持続可能な観光地を表彰する国際認証機関である、グリーン・デスティネーションズ（GD）により、弟子屈町の、「アトサスプリ・トレッキングツアー」の取り組みが世界の持続可能な観光地TOP100選に選出されました。
- ・100項目（現在84項目）のうち、GDの指定した30項目中、15項目以上をクリアした上で、ストーリー性のある取り組みが選出され、北海道からはニセコ町が上位のシルバー賞を受賞し、TOP100選については、弟子屈町を含め国内で10地域が選出されています。
- ・摩周湖観光協会と協力しながら弟子屈町観光振興計画の中で、持続可能な観光を指針とし、選ばれる観光地域づくりとして取り組んでいる成果が出ています。
- ・弟子屈町が取組主体のKA-1、川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化の取組個票に基づき、川湯温泉街の再整備に向けて10月1日付けで川湯温泉街まちづくりマスタープランを町が策定しています。
- ・「湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街」をコンセプトに実現を目指していきます。
- ・川湯温泉街には廃ホテルが多数あり、環境省直轄による解体や様々な協力のもと進めてきました。
- ・とくに、川湯地域運営協会の取り組みの中で、温泉川の清掃により、裏側にあった温泉川を正面に据え、清掃していただいたことで、温泉川が注目され、それを主役とし川湯温泉街を再開発する計画となりました。
- ・川湯広場、日帰り温泉、川湯テラス、川湯横町、キャンプ場、アウトドアセンター、森のアクティビティゾーンの7つの大きな施設を検討しています。
- ・全体の整備期間は約20年で、現時点では構想ですので、今後、基本設計や実施設計の中で、より詳細に物事を決定していきます。
- ・川湯再整備を行う体制として、オープン会議や専門家によるデザイン会議、町民参加によるワークショップを設置します。
- ・弟子屈町としては、地域の方々がここで商売や生活ができることが再整備を行ううえで重要と考えています。
- ・川湯温泉街まちづくりマスタープランは弟子屈町のホームページでもご覧いただけます。

資料1-3について、出席者からの質問等はなし

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所田中から資料1－4に基づき説明

- ・ステップアッププログラム2025でのロングトレイルの位置付けは、7つある重点的な取り組みのうち、「阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成」と「ひがし北海道におけるAT推進」の2つに関わりがあります。
- ・経済産業省統計局のスポーツ種目の行動順位率の調査データでは、25歳以上では「ウォーキング・軽い体操」が第1位で、15歳から24歳についても第2位となっています。
- ・北海道はとくに広大な土地であることから、自動車での移動が中心で歩くことに抵抗がある人が多いですが、このデータをお見せすることで、歩きたいと思っている人が結構な割合でいることが分かりますので、決して歩く人がいないわけではありません。
- ・現在取り組んでいる3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイルは、知床（羅臼）から釧路まで、知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園とまちを結ぶ、総距離約400kmの長く一本に繋がった歩く旅の道で「北海道東トレイル」という名称に決定しました。
- ・特徴として、世界自然遺産知床の「海」、斜里岳の裾野に広がる広大な「畑作」、日本最大の屈斜路「カルデラ」、釧路川流域の山肌に永遠と続く「酪農」、日本最大の釧路「湿原」の「5つの特色あるエリア」と「3つの海」にまたがり、2、3日毎に景色が変わることで、道東の風土を感じられます。
- ・環境省が単独で行っている事業ではなく、地域の取り組みをベースとした広域連携として、美幌地区3町協議会の屈斜路カルデラ外輪山トレイルや弟子屈町とてしかがトレイルクラブの摩周・屈斜路トレイル、清里町の裏摩周外輪山トレイルが挙げられます。
- ・取り組みの目的としては、世界に通用するロングトレイルを道東につくることや、新たな観光価値の創出、トレイルを中心とした新たな利用の推進、新しい観光スタイルの創出、脱炭素の推進、地域活性化と地域全体のブランド力向上です。
- ・期待される効果としては、新たな観光ビジネスの創出や新たな宿泊サービスの創出、新たな観光コンテンツの創出、移住やリピーターの増加、まちのイメージアップ、交流・関係人口の増加、滞在の長期化です。
- ・具体的には、トレイルを歩くツアーや送迎付き宿泊パック、JR釧網本線やサイクリング、カヌー等を組み合わせた新コンテンツやツアー、地域の方とハイカーの交流により地域のファンの増加等が挙げられます。
- ・管理運営体制では、統括本部を立ち上げ、事務局的な機能や総括的な情報発信を行い、環境省の直轄施設であるビジターセンターをサテライト施設として、トレイルに関する情報発信や情報提供を検討しています。
- ・引き続き、令和6年秋の全線開通を目標に取り組みを進め、ロゴマークやトレイル憲章の決定、2月上旬に統括本部の立ち上げ、管理運営計画（案）の策定を行います。
- ・令和6年度については、地域の機運醸成や管理運営計画の策定、ブランド化、道標の設置、住民への周知活動、プロモーションを進めます。

資料1－4について、出席者からの質問等はなし

○環境省阿寒湖管理官事務所日比野から資料1－5に基づき説明

- ・環境省のマリモに関わる取り組みについてご説明いたします。
- ・環境省では、現在かつてのマリモ生育地である阿寒湖のシュリコマベツ湾の復元再生に取り組んでいます。
- ・明治30年にシュリコマベツ湾でマリモが初確認され、大正10年に天然記念物に指定されました。
- ・昭和30年代までに、採取売買や発電利用での水利用・水位低下、木材流送による生育環境への悪影響、観光船の投錨によるマリモ群生地の攪乱等により、シュリコマベツ湾でマリモが消失しました。
- ・一方で、国立公園や特別天然記念物の指定、チュウレイ湾にマリモ保護監視人の設置、発電による水利用の水位低下の制限、遊覧船の乗り入れの禁止等がなされ、昭和25年にはマリモ愛護会が発足し第1回まりも祭が開催となりました。
- ・昭和40年代以降には、観光の活発化による阿寒湖の水質汚染が顕著となり、昭和43年から昭和60年かけて、チュウレイ湾での球状マリモの生育量が4割減となりました。
- ・汚染防止対策として、湖底の浚渫や公共下水道の設置が行われました。
- ・平成に入り、阿寒湖の透明度は回復傾向にありましたが、マリモ以外の水生植物の分布拡大によりチュウレイ湾でのマリモの分布面積が減少しました。
- ・平成24年にはマリモ保護管理計画が策定されました。
- ・環境省では、平成28年度からの国立公園満喫プロジェクトの中で、チュウレイ湾でのマリモ学習ツアーの検討を開始していましたが、令和元年度にはチュウレイ湾でのマリモ学習ツアーの実施によるマリモ生育への悪影響が懸念され、シュリコマベツ湾でのマリモ生育の復元再生と学習ツアーの実施の検討に方向転換に至りました。
- ・令和2年度からは、シュリコマベツ湾での取り組みが開始され、疑似マリモによるマリモ育成試験や地域関係者による現地見学会・意見交換会が行われ、現在はマリモ保護管理計画を具現化するためにマリモ個体群の復元再生やマリモを学ぶ場、マリモと触れあう場の創出を具体的なアクションとして位置づけて実施しています。
- ・シュリコマベツ湾とは、阿寒湖の西部に位置し、球状マリモが初めて確認され、人間活動によりマリモが消滅した場所でもあります。
- ・今後は、環境を改善してマリモの復元再生を行い、多くの方がマリモに触れ、マリモについて知ることができ、マリモ保護への理解を深める場所とし、復元再生で得た知見をチュウレイ湾とキネタンペ湾での保護にフィードバックを進めます。
- ・チュウレイ湾及びキネタンペ湾とは、阿寒湖の北部に位置し、大型のマリモが生育する世界唯一の場所として、マリモを厳正に保護し、後世に引継ぐべき場所です。
- ・今後は、マリモやマリモの生育環境の調査・研究で得られた知見を環境教育やシュリコマベツ湾での取り組みに提供してもらうような形にしていきたいと考えています。
- ・目標としては、シュリコマベツ湾を、かつてのように球状マリモ群生地が見られる場所に戻すことやシュリコマベツ湾から阿寒湖温泉を、「マリモ」や阿寒湖の「自然」、「歴史」、「人

と自然の関わり」を学ぶことができる場所にするこゝで、阿寒湖温泉を、「マリモ（阿寒湖）を再生させた場所」や「マリモ（阿寒湖）を通じて環境（人×自然）を考える場所」として認知させ、「環境観光の地」としての価値向上に貢献することゝす。

- ・令和5年度の取り組みは、マリモ生育地の復元再生としては、疑似マリモでの育成試験や水草刈取後の状況把握、漂着マリモ調査が挙げられ、マリモを学ぶ場・触れあう場の将来像の検討としては、将来像（目指す姿）の検討が挙げられます。
- ・将来像（目指す姿）は、マリモ保護管理計画ではマリモ消滅水域であるシュリコマベツ湾をマリモの生育地として復元再生し、「マリモを学び、触れあう場」として活用していく構想が示されているが、具体的にどのような姿なのかは明確にされていないので、地域で一体となって目指すべき姿を共有するとともに、実現に向けたステップ及び実現に向けた諸課題を具体化することが必要と考えています。

資料1－5について、出席者からの質問等はなし

## （2）阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025の進捗状況について

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所豊島から資料2－1に基づき説明

- ・ステップアッププログラム2025の目標値をまとめたものになりますので、目標を一つずつ確認します。
- ・目標1の関係市町訪日外国人宿泊客延べ数につきましては、令和4年度の段階では未だ新型コロナが猛威を振り、コロナ禍前の水準には戻っていませんが、令和5年度以降は新型コロナの5類への移行や水際対策として行われていた入国制限等が緩和され、訪日外国人は回復傾向にあります。
- ・目標2の関係市町宿泊客延べ数につきましては、コロナ禍前の9割近くまで戻り、令和5年度につきましては、目標の達成に向けて期待できるのではないのでしょうか。
- ・目標3の国内旅行者リピーター率につきましては、コロナ禍においては数値の公表がありませんでしたが、コロナ禍前の水準まではまだ厳しいようです。
- ・目標4の連泊利用者数につきましては、コロナの影響をあまり受けずに推移し、目標の達成までは難しいかもしれませんが、目標2と同様、コロナ禍前の水準までは戻るのではないのでしょうか。
- ・目標5の訪日外国人国別割合（欧米豪比率）につきましては、コロナ禍における各国の入国制限の状況等に左右され、欧米豪比率が非常に高まっており目標が達成されていましたが、前年度につきましてはコロナ禍前の水準まで戻りつつあります。
- ・目標6の季節繁閑差につきましては、コロナ禍においては外出制限等の様々な社会的な要因により、季節における繁閑差は極めて大きくなっていましたが、前年度においては、概ねコロナ禍前の水準となっています。

- ・推測ですが、全国旅行支援や緊急事態宣言のタイミング等の影響も少なからず受けていると思われます。
- ・目標 7 の阿寒摩周国立公園内外の主要施設の利用実績につきましては、別紙をご覧ください。
- ・コロナ禍前の水準まで戻りつつあり、道の駅に限って言いますと、微増しています。
- ・キャンプ場については、コロナ禍での密の回避や公共交通機関の利用の敬遠等の影響により 1 割ほど増加しておりましたが、前年度については、コロナ禍前の水準に落ち着いています。
- ・以上、ステップアッププログラム 2025 の目標の振り返りでした。

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所豊島から資料 2-2 に基づき説明

- ・毎年更新を重ねてスペースが限られてまいりましたが、本年度を中心に進捗状況を簡単にお伝えいたします。
- ・アドベンチャートラベルの推進では、先ほど北海道運輸局さん、釧路市さんからのご報告もありましたが、今年 9 月 11 日から 15 日に ATWS 2023 北海道リアルで開催されました。
- ・これに先駆けて、8 月には鈴木知事がつつじヶ原探勝路から硫黄山にかけてを歩かれました。
- ・阿寒摩周国立公園インナーブランディングの推進では、前年度に製作した、自然の郷ものかたりの第 3 号を 4 月から 5 月にかけて、旧阿寒町及び弟子屈町の全戸に配布いたしました。
- ・今回の製作をもって一区切りの予定です。
- ・官民連携による誘客促進では、先ほど弟子屈町さんからのご報告もありましたが、昨年度の摩周湖カムイテラスに続き、9 月には硫黄山 MOKMOK ベースがオープンしました。
- ・川湯温泉街の廃屋撤去では、1 棟目華の湯ホテル、2 棟目川湯プリンスホテルが令和 3 年度までに撤去が完了し、跡地に星野リゾートの「界テシカガ」の開業が令和 8 年に予定されています。
- ・現在、3 棟目、4 棟目として、御園ホテルと川湯グランドホテルの廃屋撤去が進められ、順調に進むと、本年度末には撤去が完了する見込みです。
- ・摩周湖外輪山トレイルの整備では、昨年度一部が完了していた、裏摩周展望台から西別岳登山道までの想定ルートの笹刈りが行われ、1 本の道として繋がりました。
- ・本年度の事業の進捗状況については以上です。

資料 2-1、資料 2-2 について、出席者からの質問等はなし

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所豊島から資料 2-3 に基づき説明

- ・目標と取組内容につきましては、基本的には策定当時のもので、進捗状況につきましては、令和 4・5 年度の動きを記載しています。
- ・現在令和 5 年度ですが、今後 2030 の策定があるか今時点では何も決まっていますが、2025 の振り返りをしつつ、2030 の策定に向けて、本年度中に取組個票の整理を行いたいと思います。

- ・現在のステップアッププログラム2025は、令和3年2月に策定され、令和7年度末には策定時期となりますので、今年度及び来年度までに整理したものを共有し、整備が完了しているものや、棚上げとなっている案件、目標設定を延期する事業などの把握を進めます。
- ・目標の右横、取組内容の右横がそれぞれピンク色のセルとなっており、ここに、目標や取組内容について一つずつ、達成状況や取組状況を記入いただこうと思っています。
- ・例をいくつかご説明いたします。
- ・環境省が取組主体のものになりますが、4ページ目のKA-2、「川湯EMCのインバウンド対応機能強化」があります。
- ・取組内容の具体的な項目として、「エコミュージアムセンターの名称を海外でも一般的なビジターセンターに名称変更するとともに、既存の標識類を更新する。」とありますが、これは令和4年4月に対応しています。
- ・一部古い名称のままのものもあり、今後対応が必要なものもあるかと思われます。
- ・次に、「国立公園の利用情報の提供やツアー予約等に対応するため、ツアーデスク等を整備する。」とありますが、同じく令和4年4月に整備が完了しています。
- ・実際の運用には至っていない部分もあり、引き続き取り組みが必要と思われます。
- ・次に、アドベンチャートラベルに対応するため、センター内の展示や設備等の改修を実施する。」とありますが、これも改修は完了しています。
- ・個票自体は、引き続き取り組みを進める必要があると思われます。
- ・7ページ目のKU-3、「和琴集団施設地区の再整備」があります。
- ・目標では、「令和3年度までに和琴探勝路の標識多言語化改修を完了する。」とありますが、この事業は1年度遅れての令和4年度に完了しています。
- ・「令和6年度までに園地の再整備を完了する。」とありますが、遅れが出ておりますが、令和6年度に集団施設地区の基本計画を策定予定です。
- ・今後、スケジュール及び目標の設定時期の見直しが必要な取り組みと思われます。
- ・取組内容につきましても、完了していないものもありますが、概ね取り組みが行われています。
- ・8ページ目のNPの2、「プロモーションおよび効果的な情報発信の実施」があります。
- ・目標や取組内容がそれぞれ記載されていますが、ホームページの改変やウェブサイトの統合など、策定当時から状況が変わり、本省での一括管理の方針が示され、個票自体の見直しが必要と思われます。
- ・このように、目標や取組内容の進捗状況を把握するため、皆様にご協力をいただきたく考えておりますので、よろしく願いいたします。
- ・私からは以上になります。

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所田中から資料2-3に基づき説明

- ・ステップアッププログラム2025の計画年度は、令和7年度までとなっておりますが、そこに向けて現時点で完了している取り組みや記載しているものの実質対応が難しい取り組み、計画年度までには終わらない取り組み等、今回の部会が終了後、地域協議会までの間に整理して臨みたいと思います。
- ・計画年度までにどの取り組みに力を入れることや2025から2030への改訂の参考にしていきたいと思います。
- ・結果が出やすい取り組みは既に完了していることも多いですが、現時点で行えていない取り組みは、難易度の高いものや情勢等により棚上げとなっているものもあるかと思います。
- ・ここからは、それぞれの取組主体の担当の方に進捗状況等をお尋ねいたします。

環境省田中)

- ・1ページ目のAK-1、「阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善及び快適な利用空間の整備」の取組内容の具体的な取り組みでは、「アイヌ文化伝承・技術継承の活動拠点として整備を進める」とありますが、完了していますか。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・阿寒クラフトセンターのことで、現在整備を進めている段階でこれから活用に入ります。

環境省田中)

- ・整備は今年度内に完了し、活用は次のフェーズに入るという理解でよろしいですか。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・整備は完了しているので、記載内容に機能の発揮等を加筆すれば良いのではないかと。

環境省田中)

- ・ありがとうございます。
- ・取組主体が阿寒観光協会まちづくり推進機構の「フォレストガーデンからアイヌコタンまでの良好な景観の導線を整備する」になりますが、進捗状況はいかがでしょうか。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・フォレストガーデンの整備については、入湯税の超過課税を財源として整備を進めていますが、コロナ禍で入湯税の税収も少なくなり、財源も大きく変化しています。
- ・当初のイメージのスピード感とは異なり、計画の見直しも必要になるかと思っています。
- ・アイヌコタンにおける景観形成についてはほぼ完了しています。

環境省田中)

- ・超過課税の入湯税については年限があったかと思いますが、いかがですか。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・10年間を事業期間としているので、令和6年度までとなり、現在は地域の要望を踏まえながら、超過課税の制度について検討を進めている状況です。

環境省田中)

- ・ありがとうございます。

- ・AK-2、「阿寒湖の自然を体験的に学ぶプログラムの開発」の取組内容の具体的な取り組みでは、「プログラムの開発や、その在り方に関して森林利活用や保全などの観点から提言やサポートを行う」とありますが、先ほどのマリモの報告について、コメント等あればお願いいたします。

前田一步園財団山本自然普及課長)

- ・シュリコマベツ周辺の森林については当財団が所有管理しているところで、基本的には財団の管理森林内への入林については、当財団が認定しているガイドのみが可能です。
- ・今後、シュリコマベツを使用したマリモに関するガイドへの協力等について、基本の方法で対応していくのか、新たな方法で対応していくのかをいま議論しているところです。
- ・プログムが早くできるように森林所有者として引き続き協力をしていきたいです。

環境省田中)

- ・困難度も高い取り組みですが、昭和30年代までに地域の中でマリモ愛護会が立ち上げられ、守られてきた事実を再確認し、シュリコマベツ湾のマリモの復元再生と学習ツアーの実施が阿寒らしいのではないでしょう。
- ・2ページ目のAK-9、「阿寒湖と周辺湖沼群の世界自然遺産認定に向けた活動の推進」の進捗状況では、「国際的な学術誌に阿寒カルデラ湖沼群に関する論文を発表した」とありますが、世界遺産の取り組み等、コメント等あればお願いいたします。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・所管外ですがお答えいたします。
- ・当初の予定からは相当時間を要していますが、この論文が最初のステップになりました。
- ・当初の予定のエリアが阿寒湖からオンネトーや太郎湖、次郎湖、ヒョウタン沼まで広がり、知見の蓄積と論文の整理に時間を要したと認識しています。

環境省田中)

- ・この論文読んで今までバラバラに見えていたものが、雄阿寒岳の噴火でできた一連のものと初めて知り、阿寒を説明するうえで非常に分かりやすい論文だと認識しました。
- ・ありがとうございました。
- ・AK-10、「湖温泉街清掃および駐車場の修繕」の取組内容では、「阿寒湖温泉に宿泊された利用者が必ず通る場所ですので、ここを繁忙期に重点的に清掃し、阿寒摩周国立公園を美しく感じて頂きたいです」とあります。
- ・満喫プロジェクトは、ハード面が中心でお金をかけることが多いですが、ゴミが落ちていたら拾うということが身近なことで地味ですが大事なことです。

自然公園財団阿寒湖支部野竿主任)

- ・ゴミが少なくなったイメージはあるが、よく見るとまだまだ落ちています。
- ・温泉街や観光客の目の付くところにも多いので、専門の人員を雇用してはいないが、今いる人員でできることとして、とくに温泉街を中心に満喫プロジェクトの活動として清掃を行っています。

環境省田中)

- ・ありがとうございます。
- ・3ページ目のAK-12、「自然体験拠点施設等の魅力向上」の取組内容では、「マリモ展示観察センターは、令和6年度以降の計画的な整備に向けて、令和5年度までに展示内容等のリニューアルの検討を進める」とありますが、阿寒湖全体でマリモをどのように残すかを考えるうえで、非常に重要な施設でここに記載されている以上のことは何かありますか。

釧路市秋葉観光振興監)

- ・世界で唯一の大型球状マリモの生育地であることを発信していくことは重要なことです。マリモ研究室や大学とも連携しながら発信方法を検討する必要があります。
- ・狭隘な施設ですので、デジタルを活用しながら発信していくことで、この施設でないと触れられないようなプレミアムな体験を考えています。

環境省田中)

- ・環境省で取り組んでいるシュリコマベツ湾でのマリモ生育の復元再生と学習ツアーの実施について、レクチャーを行える場所を検討する中で温泉街の町並みの整備に良い影響を与えていきたいと考えています。
- ・3ページ目のON-1、「オンネトー国設野営場休憩舎整備」の取組内容の具体的な取り組みとして記載されている、「アクティビティ利用者をはじめ、地域のガイドなどの交流拠点となるような機能向上を図る」や「ツアープログラムの開発及び実践」について、進捗状況を教えていただけますか。

足寄町佐々木経済課長)

- ・UPIオンネトーについては、多くの方にご利用いただいています。
- ・この休憩舎を拠点にどのような活用ができるかを具体的に研究していきます。
- ・ロングトレイルの西の発着点としてオンネトーを入れていただき感謝しています。
- ・十勝管内は足寄町しか含まれていませんので、ロングトレイル等を含めて阿寒摩周国立公園を多くの方に知ってもらうためには、十勝管内の玄関口として、足寄町の位置付けも非常に大きな役割を果たすのではないかと考えていますので、実際に行われている、自然探索や自然体験活動等を活発化させ、ツアープログラムの開発を進めていきます。
- ・休憩舎にはエアコンを設置していないが、登山客の利用も多いことから、今後設置を検討していきたいと思います。

環境省田中)

- ・廃屋撤去や施設改修の補助金が目立ちやすいが、数年前にはコンテンツ造成の補助金もありましたので、オンネトーで活用できるものがありましたらご紹介いたします。
- ・4ページ目のKA-1、「川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化」の取組内容の具体的な取り組みとして記載されている、「川湯温泉の特徴的な泉質、周辺の森の散策、国立公園でのアクティビティなどを楽しみながら、長期に滞在して心身をリフレッシュする新たな湯治スタイルを推進」について、進捗状況を教えていただけますか。

摩周湖観光協会渡辺会長)

- ・川湯温泉の温泉は、温泉街でしか湧出しておらず、PHを見てもかなりの強酸性の特徴的な泉質ですので、殺菌効果を表に出していく取り組みを行っています。
- ・周辺の森には、アカエゾマツが多く存在し、その中を散策することで健康的なことを見つけ出すことができるのではないかと大学教授とも連携を進めながら取り組んでいます。
- ・国立公園内のアクティビティとしては、アトサヌプリトレッキングツアーやロングトレイル等の利用や活用を行っています。

環境省田中)

- ・マスタープランに基づきまちづくりを進めながら、ソフトの部分に取り組むことで、川湯温泉街がより魅力的な観光地になることが良いと思います。
- ・5ページ目のMA-1、「裏摩周園地内休憩所の再整備について」の取組内容の具体的な取組みとして記載されている、「裏摩周休憩所の再整備について、管理人・観光協会など関係機関との協議の場を設け、検討する」についてと、6ページ目のMA-2、「神の子池周辺の整備について」の取組内容として記載されている、「神の子池の駐車場・トイレ・管理棟の整備について調整を引き続き行う」について、進捗状況を教えていただけますか。

清里町水尾企画政策課長)

- ・裏摩周休憩所については30年以上が経過し老朽化が進んでいますが、理事者が代わったばかりでこれから検討する段階です。
- ・私見ではありますが、維持するとしてもログでの立て替えは厳しく、現在の管理人の高齢化による後継者の問題や景勝地として休憩所の規模や必要性を今後検討が必要と思っています。
- ・神の子池の整備については今年度行った環境調査の結果はまだ共有されていないが、アンケートの結果では駐車場やトイレについて整備の必要性は挙げられていません。
- ・トイレの整備については電気も水もない中、できる限り清潔には保っていますが、実際にトイレが必要なのかを検討する必要があり、トイレが無かった場合には、近隣の集客施設の活用や川湯地域との広域的な連携を進めていくことを考えています。
- ・皆様のお力をお借りしながら観光整備を進めていきたいと考えています。

環境省田中)

- ・さくらの滝を含めた3地点がより良い観光地に変わっていくことを期待しています。
- ・ロングトレイルのルートにも含まれていることから、3地点以外にもその先の耕作地帯が清里町であることを知ってもらう取り組みが進められればと思います。
- ・6ページ目のKU-1、「屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用」の目標には屈斜路湖ビジョンの策定とありますが、全ての取組個票の中で最も壮大な取組個票ではないかと思っています。
- ・取組内容には、高付加価値で新たな利用の例として記載されていますが、動きがありましたら、お願いいたします。

弟子屈町秋山観光商工課長)

- ・具体的には進めている取り組みはないが、民間の動きとしては屈斜路湖畔での本格的なサウナや和琴半島でのサップ等が挙げられます。
- ・動力船の乗入規制を行ったことで、かつての賑やかでうるさい印象から静けさを売りにしたので、今後さらに高付加価値な取り組みを行うことが必要と考えています。
- ・具体的には、策定当時、中島への限定ツアー等を検討していたが、情勢や機運は高まっていないのが現状で、屈斜路湖に思い入れのある方も多いことから、広く意見を聞きながら可能な限り、高付加価値な活用を検討していきたいと考えています。

環境省田中)

- ・ロングトレイルの推進やマリモの復元再生、園地の再整備等、目途が付きましたら、この屈斜路湖の適正な利活用の検討を進めなければならないと思っていますので、一緒に検討をお願いいたします。
- ・7ページ目のKU-2、「屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備調査事業」の進捗状況には、令和6年度の開通とモニターツアーの実施と記載されていますが、具体的な進捗状況を教えていただけますか。

美幌観光物産協会信太事務局長)

- ・昨日、三町協議会の幹事会でモニターツアーの振り返りや意見交換が行われました。
- ・モニターツアーについては2回の開催予定でしたが、狩猟期となり安全面を考慮し、津別側は中止、美幌側は国立公園内の植生調査を行った約2kmの短縮開催となりました。
- ・10月21日に開催し、一般の参加者が10名程度でアンケート結果では非常に高い満足度でした。
- ・令和6年度の開通に向けて、最大の課題である運営主体については三町協議会では難しいとの認識でトレ研道東支部案が方向性としては良いのではないかと考えているので、今後、環境省やトレ研との関わり方を検討し共有していく必要があります。

環境省田中)

- ・屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートは、屈斜路湖を見る目が変わるくらい素晴らしい景色が見られるので、様々なハードルを1つずつクリアしながら、一般の方にも見ていただくためにも開通を願っています。
- ・7ページ目のKU-4、「津別峠展望施設展望スペースの拡張」について進捗状況を教えていただけますか。

津別町迫田産業振興課長)

- ・展望スペースの拡張については、津別町で望んでいるもので、現時点で具体的な構想はなく、隣の弟子屈町とも未調整です。

環境省田中)

- ・地図上で見ると、屈斜路湖を見るための展望台と思いますが、実際に足を運ぶと、雄阿寒岳の素晴らしい景色も見ることができ、先ほどのATWSの報告の中で評価の期待を上回るという項目がありましたが、まさにそういった施設だと思います。

- ・ロングトレイルや自然を活用した観光の取り組みと併せて良い改修できればと思います。

津別町迫田産業振興課長)

- ・屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートについては来年度に開通します。
- ・来年度も、モニターツアーの開催を継続しますので、是非足を運んでみてください。
- ・運営団体等の課題も多くありますが、地元も期待していますので、皆様のご協力をいただきながら開通に向けて取り組んでいきます。

環境省田中)

- ・以上です。

### (3) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会の令和5年度スケジュールについて

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所末廣から資料3に基づき説明

- ・令和5年度の地域協議会については、令和6年2月に開催を考えていますので、近くなりましたら、日程調整等、ご協力をお願いいたします。

資料3について、出席者からの質問等はなし

### (4) その他

○林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署長崎氏

2月の地域協議会について、札幌からの出席になりますと、天候状況にも左右されますので、ウェブでの開催予定はありますか。

○事務局

出席状況を踏まえて検討いたします。

## ■ 3. 閉会

○北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課 笹山課長より挨拶

- ・北海道環境生活部自然環境局自然環境課の自然公園担当課長が急遽欠席となりました。
- ・お忙しい中、本部会にご参加いただきありがとうございます。
- ・平成28年度に満喫プロジェクトが始まり、ステップアッププログラム2020、2025への協力、感謝申し上げます。
- ・今年度の取り組みにつきましては、ATWS、ロングトレイル、MOKMOKベース、川湯温泉街まちづくりマスタープラン等について、それぞれご説明がありました。
- ・新型コロナウイルスについては5月から5類に移行されたことにより、観光客も戻りつつありますので、観光客の受け入れ体制の推進にご理解ご協力をお願いいたします。
- ・本日はありがとうございました。